

# 琉大生が作りました通信

# Ryu-Tu

Vol.2 2019.1

## ■はじめに

この新聞は、第一牧志公設市場を中心に活動(裏面参照)を行っているチーム「\ごまるよん。/」が作成したものです。

第2号となる本誌では、2018年11月27日に私達が開催したイベント「100年つづく公設市場ミーティング」の様子を報告していきます。100年後の公設市場がどのようなようになって欲しいか、本誌を読んで皆さんも考えてみてください！



## ■\ごまるよん。/とは？

\ごまるよん。/とは琉球大学文学部人間科学科社会学専攻所属の地域づくりに興味がある7人で結成したチームです。

琉球大学地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)採択チームとして活動しています。思い立ったら即行動がモットー。



## ■100年つづく公設市場ミーティング

私達は2018年11月27日に「100年つづく公設市場ミーティング」を開催しました。第一牧志公設市場の再整備が計画され転換期を迎えている「今」に100年後にどのような公設市場になって欲しいかを語り合いました。

### ミーティングのプログラムは以下の通りです。

- I : はじめに (公設市場に関する基本情報・様々な声の紹介)
- II : ワークショップ① (グループで100年後の公設市場をデザイン)
- III : 発表 (各グループの100年後を発表)
- IV : ワークショップ② (違うグループと交流タイム)
- V : まとめ(今自分にできることを考える)

ミーティングの様子は、12月11日の琉球新報で紹介して頂きました。ウェブでもご覧いただけます。

<https://ryukyushimpo.jp/news/entry-847064.html>

## ■お問い合わせ等

2018年度琉球大学「ちゅらプロ」採択チーム

Email : 5maru4sociology@gmail.com

Twitter: @5maru4

Facebook : 「\ごまるよん。/」で検索

ちゅらプロについての詳細↓

<http://ryudaicoc.jim.u-ryukyu.ac.jp/news/4054.php> **ちゅらプロ**



## ■ミーティング全体総括

このミーティングでは、市場関係者・地域の利用者・市役所職員・学生など様々な立場の方々が集まり、グループを作りました。多様な視点からの議論をすることにより、普段の思考を飛び越えて想像を膨らませることができていたと感じます。

各グループ個性的な理想の公設市場がデザインされており、発表を聞いていて非常に面白かったです。皆さんの公設市場に対する熱い気持ちが発表から伝わってきました。



## ■参加者の感想

参加者の皆様から頂いたミーティングの感想の一部を紹介します。

- ・市場周辺事業者として、皆が市場のことを生き生きと話している姿が嬉しかったし公設市場にしかできないことがあるのかもと思いました。
- ・地元の方達が少なくなりつつある市場ですが、今回の発表を受けて、希望が見える思いでした。
- ・事業主、消費者、市役所の方、学生など様々な立場の意見を聞くことができて、とても有意義な時間になりました。

## ■ミーティングを終えて

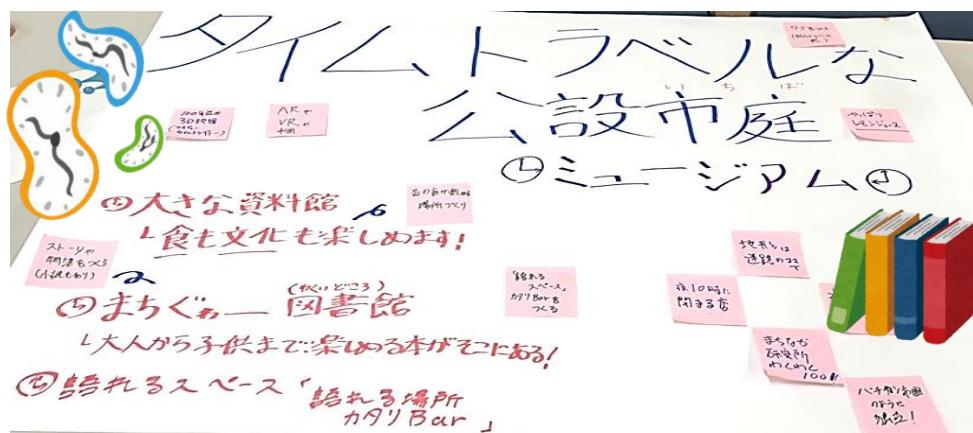
どのグループも歴史や文化などを後世に受け継ぎつつ、理想の公設市場を構想していた点が印象的でした。ミーティングを通して、参加者の皆様が未来への第一歩を踏み出したのを感じました。

今後も公設市場について関心を持って「自分事」としてこれからの公設市場を考えて頂くきっかけとなれば幸いです。

本ミーティングに参加して頂き、本当にありがとうございました。

## 1班

## タイムトラベルな公設市庭



## ■100年後の市場について詳しく！

### 「タイムトラベルな公設市庭」

「タイムトラベル」という言葉には、那覇の歴史をつなぐ・かつて市場がどのような場所であったのかを語る事ができる・時の旅ができる・博物館のようなものになってほしいという思いが込められています。

また、市場を「市庭」と表現したのは、沖縄の昔の庭のように外と中との境界線があいまいで、色々な人が気軽に訪れることができる場所にしたいという気持ちからです。

市場そのものが博物館・資料館・図書館を兼ねており、「タイムトラベル」をすることができます。また、ゆくい処や語りBarを併設して、より一層様々な交流が可能となります。



## ＼100年後に向けて今できることは？／

- ・短編小説を書いている
- ・昔の市場の写真を展示する
- ・過去を知る今を語る未来を想像する
- ・いろいろな話を聞こう
- ・友達と行ってみよう商店街の旅



# 2班 ソーシャル・テーマパークな公設市場



## 100年後の市場について詳しく！ 「ソーシャル・テーマパーク」な公設市場

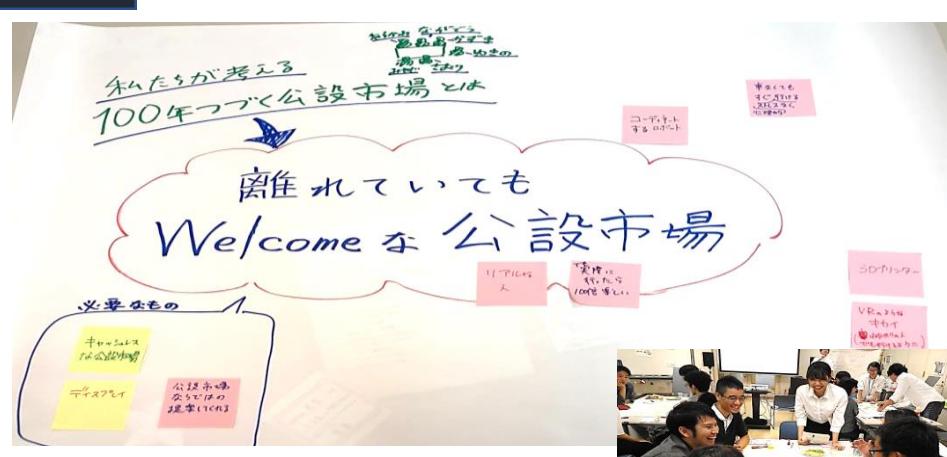
公設市場を遊園地のような場所へ。  
100年後の公設市場は今のよう一つの建物ではなく、たくさんの体験や経験ができる場になっています。「コト×モノ×体験×時間」を公設市場という空間でシェアし、自分にとっての公設市場を見つけることができる「ソーシャル・テーマパーク」になってほしいとキャッチコピーをつけました。

**コト**：シェアリングエコミーで新しい取引方法へ（お金がいなくなる!?）  
**モノ**：島らっきょうや肉、沖縄の食を支える商品やサービス  
**体験**：「農業体験」・「職業体験」・「自給自足」  
**時間**：（過去）「沖縄の食文化や歴史を学ぶ場」  
⇔「ドローン体験できるバーチャルな場」（未来）  
四つの融合で新しい「公設市場」が誕生する！？

### 100年後に向けて今できることは？

- ・信頼できる他人の増やす
- ・沖縄の食文化を学ぶ
- ・マチグワーの皆さんとの交流を多く作る
- ・AIプログラムの開発
- ・買って食べて話す

# 3班 離れていてもWELCOMEな公設市場



## 100年後の市場について詳しく！ 「離れていてもWELCOMEな公設市場」

時間的・物理的・言語的など…何がどんなに離れていても来やすく受け入れ可能な公設市場になって欲しいという気持ちが込められています。

未来の公設市場には

- ・車がなくなるともすぐに行くことができる。
- ・夕飯の献立も洋服もコーディネートしてくれるロボット
- ・偉人や店のおばーが立体的に投射される「3D投影機」
- ・実際に行かなくとも市場の雰囲気・食材の味・食感・匂い全てを体感できる「VR機器」があります。

もちろん、どんな通貨にも対応可能なキャッシュレスなレジが全店舗で完備されています。

### 100年後に向けて今できることは？

- ・市場で商品を買う
- ・自店舗の年商を10%UP↑
- ・今のWELCOMEの再確認
- ・存続していくために働きやすい環境づくり
- ・タブレットを使いこなす！

# 4班 育む公設市場



## 100年後の市場について詳しく！ 「育む公設市場」

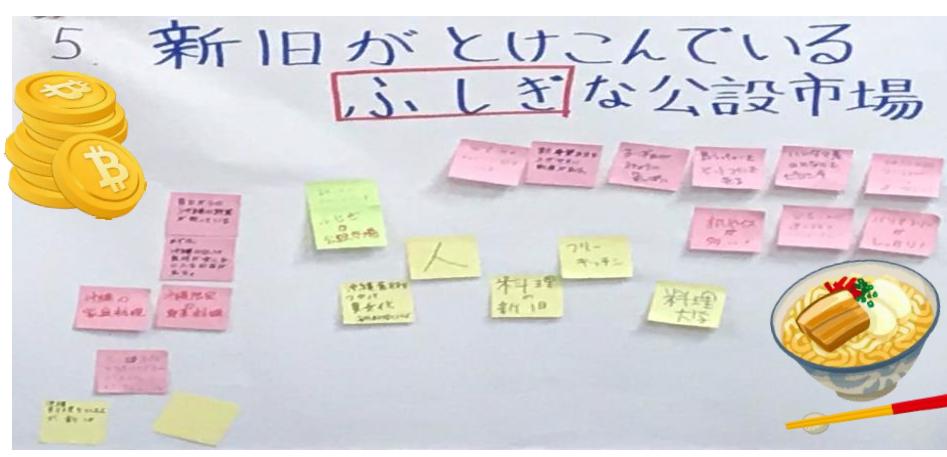
私たちが考えた100年後の公設市場は、カラダも心も夢も育むことが出来る市場です。公設市場が地域の人をはじめ、多くの人の大切な場所になってほしい、関わってほしいという思いからこのアイデアを構想していきました。

この「育む公設市場」では、例えば、夢に挑戦したい若者が無料で短期間お店を営業し、今いるプロフェッショナルな事業者の方から知恵をもらうことが出来ます。そして、その若者が成長し、今度はこの公設市場に教える人（プロフェッショナル）として戻ってくるかもしれません。循環型の場所を提供し、人々が繋がり、様々な人を育む公設市場が私たちの理想の公設市場像となりました。

### 100年後に向けて今できることは？

- ・若者の夢を応援するイベントを開催する
- ・レジェンド探し
- ・市場内や知覚のお店について調べてみる
- ・市場で楽しく過ごす
- ・市場サロン市場大学、やりたい人求む！

# 5班 新旧がとけこんでいるふしぎな公設市場



## 100年後の市場について詳しく！ 「新旧がとけこんでいるふしぎな公設市場」

私たちのグループは沖縄の歴史や文化が感じられる市場でありつつ、新しいものが融合しているふしぎで神秘的な公設市場というものをキャッチコピーにしました。

ではそのような公設市場とはどんなものなのでしょう？  
グループの皆さんから出た意見を一部紹介します！

- ・沖縄料理を使って異文化（海外料理など）とコラボ
- ・バリアフリーがしっかりある建物
- ・島らっきょうをビットコインで売る  
→沖縄の伝統的食材を最新技術で買う
- ・新事業を立ち上げやすい制度がある
- ・公設市場内に「料理大学」を設置する

### 100年後に向けて今できることは？

- ・公設市場について知識を深める
- ・仲間を増やす
- ・ゴミを拾う
- ・市民の声が行政に届き話し合いの場が持てる
- ・どんな理由で市場を利用しているか聞く